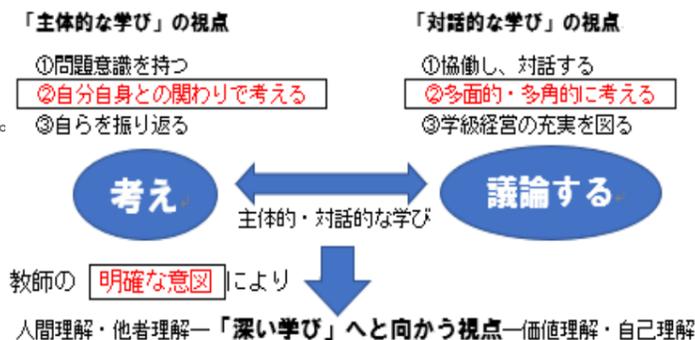


1 授業づくり

- 授業前と授業後で生徒はどう変わったか。気づきを生む  
教師は明確な意図を持ち、生徒の変容のイメージを持つ。
- 何でも言ってお互いの意見を認め合う学級集団である。
- これまでの体験と言葉をどうつなぐか。言語化させる。



(1) 教材研究

- ①教材の吟味（教材分析） … 教材全体のもつ意味を浮き彫りにする。
- 「何について考えるのか」を明確にする。道徳的価値がどのように教材に埋め込まれているかを理解する。  
読み物教材で、「どの場面」「どの登場人物」「何について（判断や動機）」考えるのか明確にする。

②学習指導要領解説による吟味

- 「内容項目の概要」と「指導の要点」をしっかりと押さえること。

（例）自主、自律、自由と責任

中学校ではまず、自己の気高さに気づかせ、何が正しく、何が誤りであるのかを自ら判断して望ましい行動を取れるようにすることが大切である。日常のどのような小さな行為においても、自ら考え、判断し～（中略）

○内容項目の発展性（小学校から中学校）などの全体を把握する。

小学校から中学校になったことで、新たに増えた視点は何かをしっかりと見る。

（例）

内容項目	小学校1・2年	小学校3・4年	小学校5・6年	中学校
公正・公平・社会正義	自分の好き嫌いにとらわれないで接すること	誰に対しても分け隔てをせず、公正・公平な態度で接すること	誰に対しても差別することなく、公正・公平な態度で接し、正義の実現に努めること。	正義と公平さを重んじ、誰に対しても公平に接し、差別や偏見のない社会の実現に努めること。

③ねらいの明確化と中心発問の吟味

○学習指導要領に示される内容項目の指導の観点の踏まえ、学級の生徒の実態と教材から「育てたい道徳的判断力、心情、実践意欲と態度」は何かを検討してつくります。

研究視点① ICT活用して、主体的、対話的で深い学びを構築する

(2) 授業

①導入 … 動機づけ

導入は簡潔に！ ICTを効果的に活用！（映像や写真はとても有効）

- 学習の動機付けを大事にして工夫する。問題意識を持たせる。

②展開 … 教材に書かれている道徳的価値に照らして、自己の生き方を考える

- 本時の「教材」資料の土俵に生徒をどうのせるか？ ← ここが重要

■範読

- ・読み物文章の内容の読み取り … 事実をしっかり押さえる
- ・中学校の教材は、短くても10分以上はかかる ←授業前に読ませて、「初発の感想」を書かせおく工夫  
挿絵や書かれた言葉を使って、場面や状況を生徒と一緒に事実を確認する。

（基本発問） 最初の発問は、書いてあることを答える簡単なもの。「感動したところはどんなところだった？」  
↓ 発問が多くならないようにテンポよく進める。

（中心発問） 本時のねらいに迫るための重要な問い ← 授業開始20分までには問う

- 「誰の視点で」「どの場面で」「何を問うのか」（思いや気持ち、考え、気づき、行動の根拠）
- ・他人の意見を聞きたくなる発問を設定する。  
（考えたくる問い・考えざるを得ない問い・これまでに考えたことがない観点からの問い）
- ・生徒同士の言葉の方が、説得力がある。（生徒×生徒）

【発問の吟味】

どう発問するかによって、生徒の答えは違ってきます。

- 「～は、どう考えたのか」⇒ 道徳的判断力
- 「その時、どんな気持ちだったのか」⇒ 道徳的心情
- 「どうしたいと思っているのか」⇒ 道徳の実践意欲と態度

研究視点②  
問い返しの位置づけ  
【反応予想+問い返し】

問い返し・ゆさぶり

子供の意見を生かして、問い返す・視点を変える

- ・自分が自分に自分のこととして問うような問い返し
- ・生徒の多様な意見を受容、承認し、発言の裏にある思いをキャッチし、問い返す
- ・授業のヤマなので、15分から20分程度の時間はつくる
- ・反応予想をしておく中で、生徒の考えに問い返しを準備。（授業は生き物、予想外もあり得る。）
- ・これらは計画段階からどの場面で活用するか予め考えておくことが大切である

○重層的発問 ⇒ 問い返しにより本質に向かわせる。生徒の回答の中に、その生徒の道徳性がある。

- ①確認・焦点化 … きまりは何のためにあるの？ 困ったことになるのは誰？ それは必要なの？
- ②根拠・理由 … なぜ、そう思うの？ どうしてそう考えたの？
- ③言い換え … それってどういうこと？ ということは？
- ④具体化 … そうするには何をすればいいの？ その場合、自分ならどういう行動をする？
- ⑤比較・対比 … ○○と○○との違いは？ 同じようなことは他にもある？
- ⑥批判反例 … 本当にそう言えるの？ 礼儀正しくすると、みんな楽しめなくなるの？
- ⑦条件変更 … ○○の立場から見るとどうなる？（視点を変える） ○○をしなかったらどうなっていたの？  
絶対解から納得解へ導くつなぎをつくる

③終末 … 今後の活動につなぐ段階 10分間はほしいところ

振り返り … 気づいたことを交流すること（言語化する）で深め合うことにつながる。

気づき・感じたことの言語化・経験したことの言語化

- 内容知 … 知識やスキルそのものである 「何を学ぶのか」
- 深い学び → 方法知 … 学び方を学ぶ能力 「どのように学ぶのか」

研究視点③  
振り返りが  
深い学びには大事

(3) 評価（授業中に、評価してしまう）

○振り返りの時（ノートに書かれたもの）に、全体の前で教師が伝える

- ・登場人物を通して自分が考えたことを発表できたね
- ・友達の考えを自分と比べて聴いて、理解できたんだね。
- ・友達の発言に関連させて、自分の考えを理由づけて語ることでできたね。
- ・これまでの自分の生き方に触れながら、考えることができたんだね
- ・自分の生活や生き方について深く考えることができたね。

と確認評価する。

※教師が評価していることはすなわち学び方を伝えている ⇔ 生徒が意識して発言するようになる。

問い返し…子どもたちの言葉を受け止めたうえで、さらにその発言から発展させるために行うものです。

補助発問…子どもたちの理解を促進させ、主発問を考えやすくするための発問で、あらかじめいくつか用意しておき、子どもたちが行き詰ったりしたときに次の一手として打つ発問です。